

博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程
博士学位論文審査委員会

主 査	村上 嘉代子
審査委員	長谷川 浩志
審査委員	渡邊 大
審査委員	市川 学
審査委員	池上 重輔
*審査委員	山崎 敦子

氏 名	イネステラー 章子
論文題目	理工系グローバル経営人材を育成するフレームワーク策定のための調査と評価分析
〔論文審査の要旨〕 最終審査（公聴会）は、2022年7月28日（木）10:00-12:00にZoomによるオンライン上で、審査委員6名（学内委員4名、学外委員2名）の参加のもと実施した。申請者からのプレゼンテーション（約60分）に続き、審査委員および公聴会参加者による質疑応答とその後に審査委員のみでの審査を実施した（約60分）。 本論文は、理工系のグローバル経営人材を育成するためのフレームワークを提案するものである。欧米などの大学教育で実践されているキャリア開発を目的とした社会人教育である Executive Education を調査し、グローバルリーダーを育成するための教育的役割を担う要素を解明した。また、1000人以上を雇用する企業に属する30代から40代の管理職エンジニア181名のコンピテンシーをPROGテストを用いて測定し、情報系エンジニア、ものづくり系エンジニア、及び管理職エンジニアのコンピテンシー特性と課題を調査分析した。このコンピテンシー調査では、高等教育における文系や理系といった専攻別に分析した際に、非管理職から管理職へのコンピテンシー変化があること、中長期的なキャリア開発には、特にリーダーシップや多様性、課題解決力と、リベラルアーツを含んだ幅広い知識が必要であることを示唆した。さらに、10校に及ぶ欧米の Executive Education を行うビジネススクールへのヒアリング調査を行い、上記のテスト結果と合わせて分析や評価を行うことにより、コンピテンシー開発を含めたグローバル経営人材育成のためのフレームワークを、ネットワーク型リーダーシップ、問題解決力、異文化理解力、先端テクノロジー、リベラルアーツを教育目標として策定提案した。 質疑応答では、審査委員や会場からの質問に的確に回答していた。審査委員による審議において、予備審査での指摘事項（ Executive Education 調査から示唆された欧米型の社会人教育のアジアの学習者における学習効果の明示化、データ分析の詳細の追加、本論文の学術的貢献および実業界への貢献の追記、結論の明確化）の改善が十分になされていると評価され、本研究は理工系経営人材の育成を担う高等教育の発展へ貢献するものであり、新規性の高い研究として評価された。 なお、博士課程在籍中の研究業績として、査読付き学術論文2編、国際会議論文（査読あり）2編（いずれも筆頭著者）、国内学会での口頭発表1件という実績を有している。 以上により、博士論文として十分なレベルにあることを満場一致で確認し、「合格」と判定した。	